兵庫県IPM実践指標(普通大豆)		
管理項目	管理ポイント	チェック欄
連作回避	輪作または田畑転換を行う。特に、土壌伝染性病害が発生したほ場での連作は行わない。	
ほ場衛生	発病ほ場で使用したトラクター等農機具は、移動前の清掃を徹底する。	
ほ場及びその周辺の管理	ほ場内及びその周辺の雑草管理を適正に行い、病害虫の密度を低下させる。	
伝染源の除去	虫媒伝染性ウイルス病の感染対策のため、クローバー等のまめ科植物及びなす科植物などの雑草管理を適正に行う。	
土づくり	堆肥を使用する場合は、タネバエ及び雑草対策として完熟堆肥※を用い、未熟な堆肥や有機質肥料の使用を避ける。 ※ひょうごの土づくり指針ｐ74　堆肥の熟度判定法参照	
排水対策	初期生育の確保や土壌伝染性病害の予防のため、排水溝を設置する。必要に応じて、高畝栽培や畝立て同時播種栽培を行う。	
除草効果の高い栽培技術	畝立て同時播種栽培、狭条密植栽培等を実施し、雑草発生を抑制する。	
適正施肥	土壌診断等に基づき適正な施肥管理を行う。	
健全種子の厳選	県「優良種子生産の手引」に準じて生産された健全な種子を使用する。	
適正な品種の選定	作型や品種特性を考慮し、地域で栽培可能な抵抗性品種または耐病性品種を利用する。	
種子消毒	種子消毒を行う。	
播種	適正な植栽密度で播種する。(播種量：サチユタカA1号 約7～8kg/10a　夢さよう 約6kg/10a)	
罹病株の抜き取り	ウイルス病や土壌伝染性病害対策のため、発病株を発見次第、早期に抜き取ってほ場外に持ち出し、適正に処分する。	
中耕・培土	雑草の発生状況を確認し、中耕・培土を適期に適正な回数行う。	
適切な土壌水分管理	過度の乾燥を避けるため適期に適切な畝間かん水を行う。	
収穫・乾燥	紫斑病対策として、成熟後速やかに収穫及び乾燥作業を行う。	
病害虫発生予察情報の確認	予察情報を活用して適期防除を行う。	
捕殺及び生物農薬の利用	ハスモンヨトウ対策として、卵塊もしくは若齢幼虫が群生しているうちに捕殺等を行う。	
農薬の使用	農薬の使用基準に基づき適正に適期散布を行う。	
	薬剤散布の際は、飛散しにくい剤型や散布ノズルを使用するなど適切な飛散防止措置を講じる。	
	薬剤の選択に際しては、同一系統薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行うとともに、薬剤抵抗性（耐性）が確認されている農薬は使用しない。	
	除草剤の選択にあたっては、栽培方法に準じた適切な除草剤を選定し、発生状況に応じて適切に散布する。	
罹病残さの除去	被害茎葉を集めてほ場外に持ち出し、適切に処分する。	
	栽培終了後、作物残さを集めてほ場外で適切に処分する。または、トラクター等により深くすき込む。	
作業日誌	栽培履歴の記録と確認を行う。	
	合計チェック数	